



県民の友

昭和58年

12月号

発行／和歌山県 知事公室 広報公聴課 〒640 和歌山市小松原通1の1 ☎ 0734(32) 4111

不自由を皆でわけあう
明るい社会
障害者福祉週間
12月9日～15日

二期県政スタート

この来る二十一世紀の社会を展望し、将来の和歌山県のあるべき姿を明確に描き、県民の福祉向上へ着実な施策を開拓すべきときであると考えます。

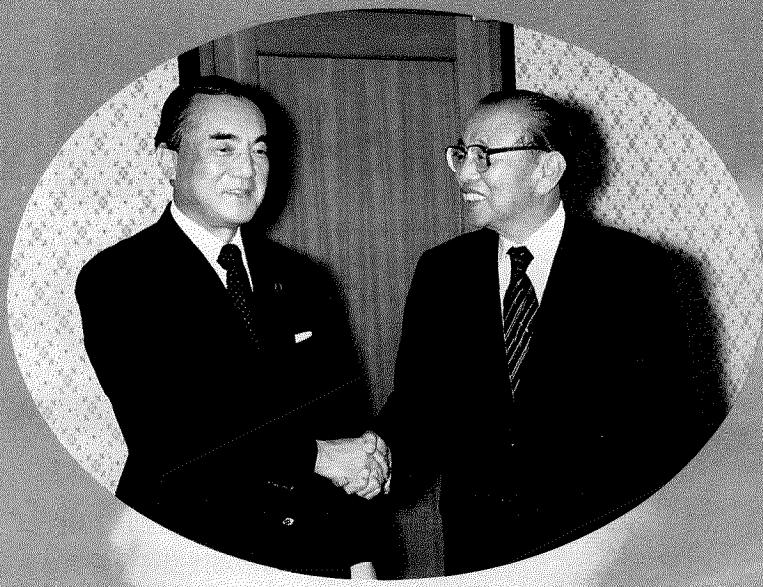
陽がさんさんと照り、気候温暖、海青く山濃い緑、まさに本県は全国でも数少ない住みよい自然条件のもとにあります。この恵まれた地でみなさまが生活を享受し、自己の存在感を確かめながら実りある人生をすごせる郷土をつくりあげることが、私の使命であり、念願であります。

活力和歌山

健康・福祉和歌山

教育・文化和歌山

この三つを基本目標として明日の和歌山の時代へ献身努力をいたします。



中曾根首相に県勢浮揚への支援をお願いする坂谷知事（11月16日、首相官邸で）

私はこのたび引き続いて知事に選ばれました。まことに光栄でありますとともに県民の信頼にこたえる責任の重大さをあらためて痛感いたしております。

昭和五十八年も残すところあとわずかとなりました。歳月の過ぎゆくことの早さに驚きを覚えますが、ここ数年間の社会の急激な変化には目をみはらせるものがあります。エレクトロニクスを中心とした技術革新の進展とともに私たちの価値観も多様化しつつあります。二十一世紀は高度技術化・国際化時代、そして高齢化時代へと変貌しようとしています。

和歌山県知事
坂谷志良

21世紀にはばたくふるさとへ

年末年始のあいさつ状について

知事および県議会議員は、県民のみなさんに親しく年末年始のごあいさつを申し上げるべきですが時節柄自粛することを申し合わせました。県民のみなさんのご理解をお願い申し上げます。

和歌山県議会議長
浦武雄

秋の高野町石道を歩く

(伊都地方)

十一月六日、県民登山大会一行四十人は秋の清涼な空気を胸いっぱいに吸い込んで高野町石道へ。町石道はその昔高野山詔でてぎわった山道で、一町(10km)ごとに建てられた石標がふもとから約二十*の道のりを案内してくれます。

十代から七十代までの参加者はそろって町石道の途中の上吉沢をスタート、名物の柿の木畑をぬつて続く小道を登り始めます。大きな峰を一つ越え、杉木立の香りを浴びて里へ下りれば、弘法大師をして里へ導いた神を祭る丹高野山へと導いた神を祭る丹

生都比売神社に到着。西行法師が晩年を過ごしたといふ天野の里でお弁当を食べると再び出発。雨引山にさしかかると眼下の紀ノ川の雄大な風景が一行の胸を打ちます。柿やみかんの色を楽しみながら下つて行くと弘法大師の母君を祭る慈尊院の階段の途中でついに最後の石標と出会いました。

目の前は九度山の落ちつい

たたたずまいです。美しい高野の紅葉が心に焼きつい

た一日でした。

ちます。柿やみかんの色を

楽しみながら下つて行くと

弘法大師の母君を祭る慈尊

院の階段の途中でついに最

後の石標と出会いました。

弘法大師の母君を祭る慈尊